

工学部だより

2016.3
No.21

「実証工房スマート未来ハウス」完成 (平成27年10月15日開館)

(6頁本文参照)



Photo: Shinya Nagaoka, m.AP



スマートハウス内部



テープカット

目

「地域の産業に力を！社会が求める技術の研究と、人材育成」学部長特別対談	2
学務委員会だより	4
教務委員会だより	4
工学部学生相談室より～障害と学生相談室より～	4
特集 世界に羽ばたけ工学部	
大学の留学プログラムを活用して	
世界を体験しよう	5
「留学が就職活動に悪影響」は都市伝説?!	5
「面白いね！」そのひらめきと技術の展開から	
20年後の未来を拓く実証空間	6
ごあいさつ	6
学科(専攻)だより	7

次

平成27年度卒業・修了予定者の就職内定・進学予定先一覧	12
平成26年度卒業・修了者の就職状況	13
キャリアサービスセンターだより	
理系の就職活動と今後の展望	14
就職活動と後輩へのアドバイス	14
山形大学工学部後援会会則	15
平成26年度一般会計収支決算書及び	
平成27年度一般会計収支予算書	15
山形大学工学部保護者懇談会	
今年度(平成27年度)実施報告と来年度(平成28年度)開催予定	16
お知らせ	16
平成28年度工学部年間予定表・後援会通信	16

「地域の産業に力を！社会が求める技術の研究と、人材育成」学部長特別対談

今、山形大学工学部ではどのような学びや研究が進められ、学生たちはどう羽ばたいていくのか。飯塚博工学部長と、昨年、後援会長に就任した長谷部利信会長に、学生たちの将来に期待を込めて、大学の取り組みとこれらについて対談していただきました。

地域創生、次世代形成、多文化共生。 大学の将来像から見る、地域における工学部の在り方

長谷部「山形大学は将来像として3つの使命を掲げています。地域創生について、工学部としてはどのように進めて行かれますか？」

飯塚「大学では文部科学省や経済産業省と連携し、地域の企業を巻き込んで新産業を創出したいと考えています。一番のメインは有機ELですね。そして有機トランジスタやセンサー、有機太陽電池、有機蓄電池など様々な分野があります。山形県とも連携をし、既に試作品も100ヵ所以上で使っていますよ。その他にもたくさんの研究をしておりますので、今後、国際事業化研究センターを中心に、工学部が行っている研究で地域とどのように関わっていくかが重要だと思っています。」

社会が求める、 幅広い知識を持つ学生の育成

長谷部「次世代形成の観点から、学生の教育について取り組まれていることはありますか？」

飯塚「工学部は105年前に繊維産業を支えるというところから始まり、今では高分子、物質化学とバイオ、電気電子と機械という、広い分野に展開しています。工学部は技術立国日本を支える人材の輩出が使命ですので、基礎教育をしっかりと行い、良い学生を送りだしていきたいと思っています。また社会が求める人材としては、専門分野だけではなく、ITの知識やノウハウ、ビジネス感覚など広い知識を持つことも必要。そういった意味で、広い分野の科目を学んだり、インターンシップなどの色々な経験を積めるようにしたいと考えています。」



は せ べ と し の ぶ
長 谷 部 利 信

略 歴
 昭和25年3月22日生(65歳)
 昭和47年3月 山形大学 工学部機械工学科卒業
 昭和49年2月 株式会社 田村電機製作所(米沢)入社
 平成2年4月 田村電子工業(株) 製造課長
 平成10年4月 ユニオン電機 代表取締役社長
 平成14年4月 田村大興ホールディングス株式会社 執行役員品質保証部長
 平成19年5月 サクサテクノ(株)代表取締役社長
 平成22年6月 退任
 平成23年6月 山形大学工学部後援会副会長
 平成27年6月 山形大学工学部後援会長

研究成果を世界に向けて。 知識を高め合う国際交流

長谷部「多文化共生の観点から、工学部における国際交流の在り方について、どのように感じられていますか？」

飯塚「1号館に国際交流センターを移し、学生たちが訪れやすい環境が整いました。また去年はドイツから英語の先生を採用。国際交流担当の事務員も配置し、留学生の支援に加え、日本の学生が海外に行きやすくなるような支援も行っています。そこで私が一番重要だと思っているのは、海外での研修内容です。ここは工学部。語学研修という目的だけではなく、ぜひ自分が研究をしたデータを持って、それをプレゼンし、議論してきてほしいのです。それこそが本来の国際交流であり、多文化共生だと考えます。」

長谷部「確かに学校で習ったことを自分の知識にするのは当然ですけれども、自分で研究して考えたものを皆さんに発表し、伝えるというのが一番良い経験になりますね。」



学びを深め、地域に力

長谷部「保護者の方も気になっている、工学部への入学と卒業後の現状についてお聞かせください。」

飯塚「山形大学では地元山形からの入学生を増やしたいと考えています。そして知識と技術をもって卒業し、地域の産業に貢献してほしいと思っています。現状としては山形県からの入学者は20%前後。その約半分の学生が地元就職しています。また北関東や静岡、愛知からの志願者も増えており、名古屋に入学試験会場を設けたりしています。入試については、高校と大学の連携も行っているという国の方針が出されています。それは大学から必要としている人材を発信し、高校でもそれに応えられるような教育が行われるというものです。これから入試はAO入試や推薦入試がさらに増えていくと思います。就職については、地元に戻りたいという学生にはほぼ希望が叶えられているという状況ですよ。」

長谷部「進学率も増えていますよね？」

飯塚「工学部では現在約50%の方が大学院に進学しています。特に工学部の強みは高分子。有機材料関係の分野は70%以上の方が大学院に進学しています。高分子や有機というのは高校生にはなじみが薄いのですが、やればやるほど面白さが分かってくるんです。

そこで、学部の4年と大学院修士課程の2年で6年間、それを3年プラス3年といった教育プランにしたいと考えています。学部の3年間は基礎教育をやって、4年生になるときに一回試験をし、基礎が学べているかを確認。そして卒業研究の1年間と大学院の2年間で後半の3年間へ。これまではその間に留学や企業へのインターシップを希望すると留年をしたりしていたのですが、この3年間をフレキシブルにし体制を整え、学生が活動しやすくしたいと検討しています。」

夢中になれる研究を山形大学で

長谷部「工学部では今新たな研究棟が様々建設されていますが、これらを教育研究にどのように活かしていこうとお考えでしょうか？」

飯塚「ここ数年の間に、有機エレクトロニクスイノベーションセンター、蓄電デバイス研究開発センター、グリーンマテリアル成形加工研究センター、有機材料システムフロンティアセンターという最先端の研究施設ができました。私は研究こそが大学の魅力であると思っています。今、教育や社会貢献に力を入れなさいと言われていた大学が多いようですが、私は先生方に『研究を頑張ってください』と伝えています。面白い研究をしている所に学生がきて、夢中になって、そこから夢や目標が開けたりするはず。もちろん教育は必要ですが、最先端の研究に学生も参加し、ワクワクしながら一生懸命勉強、そして研究する、そこから教育が始まるのだと思うのです。ですから最先端の研究はどんどん取り入れたいと考え、新たな研究棟が建てられることになりました。」

長谷部「やっぱり夢がある研究となると学生も面白くてのめり込みますよね。」

後援会に期待を込めて

長谷部「後援会は、学生への教育支援や、教員への研究支援はもちろん、大学と保護者との橋渡しとしてもお力になりたいと考えているのですが、後

大学院理工学研究科 教授 【工学博士】 【専門：機械材料・材料力学、設計工学 機械機能要素・トライボロジー】 【本籍：千葉県】	
略 歴 昭和29年10月7日生 (61歳) 昭和53年3月 秋田大学鉱山学部機械工学科卒業 昭和55年3月 秋田大学大学院鉱山学研究科修士課程修了 昭和55年4月 秋田大学 教務職員 鉱山学部 平成4年4月 山形大学 助手 工学部 平成6年10月 山形大学 助教授 工学部 平成15年4月 山形大学 教授 工学部 平成16年4月 山形大学評議員・副工学部長 (～平成19年3月) 平成19年4月 山形大学工学部機械システム工学科長 (～平成22年3月) 平成22年4月 山形大学工学部システム創成工学科長 (～平成23年8月) 平成23年9月 山形大学評議員・工学部長・理工学研究科長 (～現在)	いい 飯 つか 塚 ひろし 博

援会に望まれていることなどありましたらお伝えください。」

飯塚「私が学生の頃を思い出してみると、親が大学に訪れたのは卒業式の1回だけでした。昔ほどの家庭もそんな感じでしたよね。25年前、私がこの大学に来た時、一つの学科ごとにクラス担任がおり、驚きました。前の大学では担任制度はなく、学生はただ勉強しクラブ活動等をするだけ。山形大学の熱心な教育方法に感心したのです。そのあと他の大学でも担任やアドバイザーが配置されるようになったようです。それから大学でも後援会が設立されました。普段の生活を含めて保護者と連携をし、人材育成をしていくという流れができ、学生はより学びやすく、活動しやすくなりました。そこでお願いしたいのは、まだまだ歴史が浅く模索している部分もあり、保護者の方の『こうしてほしい』というお話をもっともっと繋いでいただけたらありがたいです。」

長谷部「後援会では、年に1回の工学部だよりの発行に加え、昨年4月からホームページも開設し、保護者の皆様に学内行事をお伝えしようと、毎月更新しております。ですから保護者の方にもぜひ見ていただき、大学について知ってほしいなと思います。また大学と保護者の橋渡しを担うためにも、これまでも行っている3地区の保護者懇談会に力を入れ、多くの保護者の方に参加いただきたいと思っています。そこではアンケートなどもありますので、要望等伝えていただきたいですね。」

飯塚「もう一つ、国際交流という観点から、現在海外に教員や学生が行くときに後援会や米沢工業会などからご支援を頂いているのですが、これが適応されない分野があるのです。例えば研究発表では、大学の先生が企業と共同研究をして、共同研究経費や寄付金で一部を賄えるのですが、サークル活動やコンテストでは研究経費として区分されないのです。こういう分野もこれから増えていくと思うので、海外で勝負してこようとする意欲ある学生にはぜひ支援をしてほしいです。」

長谷部「後援会の他に、工学部の卒業生で組織し大学を支援している米沢工業会があります。お互い連携し学生、大学のために引き続き応援していきたいと強く思います。」



学務委員会だより

学務委員会委員長 **山本 修**
(大学院理工学研究科 応用生命システム工学分野 教授)



学務委員会では、工学部学生に関連の深いカリキュラム編成、講義改善や試験のみならず、保護者の皆様にとって関心の深い奨学金や健康管理など、様々な実務を行っています。言い換えれば、教育現場と学生との橋渡しを最前線で行う委員会です。

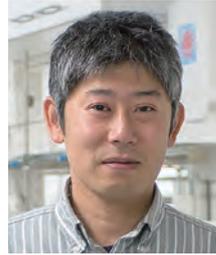
実社会からグローバル化に伴う英語教育と専門的職業人の育成が要求される中で、工学部ではE-ラーニングやTOIECなどの基本的英語学習とネイティブスピーカーによる英会話教育を行っています。グローバル化は基本的英語のみならず、汎用的英会話の活用が重視されていますので、全学科で受講できるように教育フローを構築しています。また、工学部には幅広い専門分野（学科）があり、他学科の講義を受講することができるので、専門+aの知識を得ることができるようにカリキュラムを編成し、ひと味違う専門的職業人を育成しています。

健康管理では、近年の脆弱な道徳教育によって深い悩みを抱える学生が増え、結果として生活の乱れや体調を崩して不登校となる事例が増えつつあります。学生相談室と協力しながら、予防的対応を行っておりますが、是非、保護者の皆様におかれましても、学生の生活状況の変化を注視して頂けると幸いです。また、封書で成績確認票を送付しておりますので、成績の変化からも学生の生活状況の推察ができるかと思っております。

保護者の皆様の工学部へのご支援に深く感謝すると共に、今後とも学務に関するご理解とご協力を心より御願ひ申し上げます。

教務委員会だより

教務委員会委員長 **落合 文吾**
(大学院理工学研究科 物質化学工学分野 教授)



教務委員会は大学院理工学研究科の講義をはじめとする教育と学位論文、および学生の異動などを審議する大学院生の生活に関わる委員会です。大学院は小白川キャンパスにおける理学系と米沢キャンパスにおける工学系が合わさっ

て理工学研究科となっている点で、学部と異なります。ただし、博士前期課程については分科会として各キャンパスで審議しております。

私は、平成27年9月に委員長を仰せつかりましたが、その約2週間前に有った会議で初めて教務委員会に出席するという状態で、一体何をするのかよく分からないままスタートを切りました。このような頼りない委員長でしたが、委員並びに事務スタッフの皆様のお陰で何とか今まで大過なく運営できていることを深く感謝しております。

この原稿を書いている一月は修了する大学院生の正に追い込みの時期です。多くの学生が、最後の詰めの実験とそれを基にした論文の執筆に励んでいます。この時の努力（多少付け焼き刃でも）は、このあとの社会に出てもずっと役立つ知と心の蓄えになることでしょう。私共は、そのためのできるだけ良い環境を提供できるよう力を尽くさせていただきます。次世代を支える学生たちの栄えある未来に向けた、後援会の皆様からの温かいご協力とご支援に深く感謝申し上げますとともに、引き続きのご厚情を頂きますようお願い申し上げます。

工学部学生相談室より

～障害と学生相談室～

学生相談室カウンセラー（臨床心理士）
准教授 **高橋 国法**



平成28年4月より障害者差別解消法が施行され障害を理由とする差別的取り扱いが法的に禁止されます。また合理的配慮の不提供も禁止され、国立大学は障害を持つ学生の修学環境を整備し、教育を受けやすくする法的義務を負うこととなります。この法律は身体障害だけではなく発達障害を含む精神障害を持つ学生も対象としています。先進諸国からだいぶ遅れましたが、我が国においてもこのような法的動きがあることは喜ばしいことです。

これまで学生相談室では精神面に障害を持つ学生のサポートも行ってきました。この法律によって学生相談室の業務に大きな変化はありませんが、障害を持つ学生にとっては大きなメリットになる可能性

があります。これまで教員の善意で行われていた配慮が法の下に行われることとなりますので、こうした配慮を受ける敷居が低くなります（障害特性に応じた配慮のことを合理的配慮と言います）。

ただし合理的配慮を受けるには自ら申し出なければいけません。山形大学にも平成27年に障害学生を支援する「障がい学生支援センター」が立ち上がりました。もし該当する方がいらしたら学生相談室も一緒に支援を行いますので遠慮なくお声をかけて下さい。

特集

世界に羽ばたけ工学部



大学の留学プログラムを活用して世界を体験しよう

工学部国際交流センター准教授

仁科 浩美

山形大学では平成27年12月現在、33か国66機関と大学間協定を、工学部では12か国24機関と学部間協定を結び、交換留学制度を設けています。また、大学全体には約220名の留学生在がおり、そのうち米沢キャンパスでは、13か国70名の外国人留学生在が勉学に励んでいます。

グローバル化が急速な勢いで拡大する今日、エンジニアとして働くようになれば、海外出張はごく当たり前のこととなり、国内勤務であっても外国人と共に仕事をするという時代になりました。工学部では、世界を感じ、視野を広げるため、下記の様々なプログラムを提供・支援しています。なお、日常の国際交流に関する学生の活動の様子や留学情報は、国際交流センターHPをご覧ください。http://yu-eng-iec.sakura.ne.jp/



米国ポーリング・グリーン州立大学に短期留学中の学部4年内部錦君(手前左)平成28年1月現在の学部4年内部錦君(手前左)平成28年1月現在の学部4年内部錦君(手前左)平成28年1月現在の学部4年内部錦君(手前左)

工学部生が活用できる主な留学制度一覧

(平成27年12月現在)

派遣	派遣主体	派遣先の種類	対象	実施期間	募集時期(概ね)	実施開始時期(概ね)	支援
短期交換留学(派遣)	山形大学	大学間交流協定校	本学学生(正規生)	6ヵ月～1年間	10月	翌8月～	留学支援金(金額未定)
短期交換留学(派遣)	山形大学工学部	学部間交流協定校	本学学生(正規生)	6ヵ月～1年間	10月	翌8月～	留学支援金(金額未定)
官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPANプログラム～	(独)日本学生支援機構	留学先として適切であること	日本人学生等	28日～2年間	派遣主体による	本人の計画による	奨学金、留学準備金、授業料
新興国「学生大使」派遣自己改革・成長プログラム	山形大学	本学海外拠点設置大学(大学間交流協定校)	本学学生(正規生)	2週～1ヵ月月間程度	6～11月	7月～翌3月	渡航補助金
山形から世界へはばたけ～海外でグローバル力を磨く～(基盤教育集中講義)	山形大学	本学海外拠点設置大学(大学間交流協定校)	小白川で学ぶ学部1年生	2週～1ヵ月月間程度	6～11月	7月～翌3月	渡航補助金
海外拠点大学への超短期派遣プログラム	山形大学	本学海外拠点設置大学(大学間交流協定校)	本学学生(正規生)	10日程度	7月～2月頃(未定)	9月～3月頃(未定)	渡航補助金
山形・アンデス諸国ダブル・トライアングル・プログラム	山形大学	ペルー・ボリビア・チリの協定校	学部2年以上博士前期課程までの学生	3週間程度	12～1月	3月	渡航費、滞在費等
海外研修実習(工学部)	山形大学工学部	指導教員等と研究交流がある海外大学等の研究室	学部2年以上、院生	1～2週間程度	5～6月	7月～翌3月	航空運賃の一部
国際連携サマープログラム(派遣)	山形大学工学部	学部間・大学間交流協定校	学部生2年以上、(留学未経験者優先)	2週間程度	5月	9月	航空運賃等の一部、奨学金



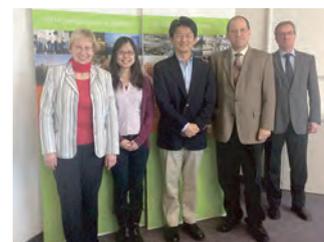
「留学が就職活動に悪影響」は都市伝説?!

工学部応用生命システム工学科 4年

土屋 みなみ

2014年9月～2015年5月の9ヶ月間、ドイツ・ザクセン州・ドレスデンにあるザクセン州経済振興公社でインターンシップを行ってきました。州内に国内外から工場や企業を誘致し、雇用を生み出して経済を活性化させることが目的の会社で、経験した仕事は「工学・ビジネス間、ドイツ・日本間の懸け橋」。車関連工場が多い、有機エレクトロニクス分野の産業化を促進中などの州の現状を鑑み、学問領域の工学をビジネスへ発展させるべく、日本からの工場・研究所・産学連携システム視察について準備・同行・フォローアップ、シンポジウムや展示会の企画・準備・運営・補助・視察、HPやパンフレットの和訳、取材対応等を主に英語でおこないました。ここでは3つの理由から、「留学が就活に悪影響を及ぼすとは限らない」とお伝えしたいです。1つ目は、企業が肯定的であること。私の留学は、「トビタテ留学JAPAN」という、官民協働で渡航費・授業料の一部・生活費

返の返済不要奨学金を給付する新制度により実現しました。ポイントは学生の最終的な受け皿である企業からも寄付金を募っているところで、2015年12月27日現在、172社から108.5億円の支援が寄せられています。2つ目は、就活は自分とご縁次第で、留学による時期のズレは必ずしも影響しないこと。同制度で帰国後就活をした友達には、2ヶ月懸命に勉強し国家公務員試験に合格した人や、ご縁により3日で内定をもらった人がいます。3つ目は、地元の中小企業でも海外志向が求められること。就事中、日本の地元中小企業が海外進出に精力的な様子とその必要性を目の当たりにしました。留学がすべてとは言いませんが、少しでも興味があるならば是非選択肢の一つにしてほしいです。



左から直属の上司、本人、出張でいらした本学部高橋辰宏教授、総裁、副総裁

「面白いね！」そのひらめきと技術の展開から 20年後の未来を拓く実証空間

山形大学有機エレクトロニクス研究センター 卓越研究教授 城戸淳二

世界が目指す未来を体感する家

山形大学が手掛ける研究と技術は、20年後の私たちの暮らしをどのように変えていくのか。その答えを導くべく、平成27年10月、米沢市のオフィスアルカディア内に「実証工房 スマート未来ハウス」が完成しました。一見オシャレな展示ハウスととらえられがちですが、スマート未来ハウスでは完成したモノを見てもらうのではなく、現在有機エレクトロニクス研究センターで進めた研究や技術が、どのように有機エレクトロニクスイノベーションセンターで応用・プロセスの展開がなされ、どのように応用していただけるのか。また、応用した場合どのような感じを受けるのか、実際に暮らしの中に落とし込む実験をし、社会へ提案していく世界に1つしかないお家なのです。

快適・健康で心豊かな未来の生活を想い描いて

スマート未来ハウスには、一般的な家庭と同じようにリビングやバス、寝室、トイレなどがあります。また、洋室に加え日本家屋らしい畳の和室も。あらゆる空間と暮らしを想定し、建築、照明デザイン、民生機器、人文社会、有機エレクトロニクスなど多様な専門家が、20年後の家、生活、社会のあるべき姿を想い描きながら、多種多様な研究を進めているのです。

通常の照明は天井に設置してありますが、スマート未来ハウスでは床や鏡が光り、室内に入れば、誰もが未来を間近に想像し、ワクワクするに違いありません。その中の一つ寝室を見てみると、固定の照明機器は配置しておらず、空間を照らすのは、壁や木製のクローゼットに取り込まれた有機ELの柔らかな光。ここでは上質な眠りを追求すると共に、目覚まし時計のような音の衝撃で目覚めるのではなく、体に朝日を浴びるようにゆっくりとした光を与え、心地よい目覚めを生む実験も行われています。

また、2階の窓には有機薄膜太陽電池を貼りました。太陽のエネルギーで電気をつくり、蓄電デバイスに蓄え、生活空間のエネルギーとして使われます。さらにダイニングルームにある野菜栽培にも太陽光に近い光を与えています。こうして無農薬で育てられた野菜は、すぐさまサラダにして食べることができるのです。それから寝室と同様、固定照明機器のない和室では、障子が光を

放ち、あたかも外光が差し込んでいるような驚きの空間になっています。壁にかけられた掛け軸はディスプレイになっており、光を放つばかりか描かれたイラストが動きだし、癒しの時を演出。季節ごとに変化させたり、もしもの時には災害情報が流れるようにするなど、今後の展開にも期待されています。



続く、無限の可能性

広いリビングに足を運ぶと、壁には240インチの大型ディスプレイが全面に設置されています。ここに映し出されるのはテレビやインターネットの映像に留まらない、離れて暮らす家族の等身大の姿や、憧れの世界の風景。何を映すかによって空間の雰囲気はまるで異なり、もしディスプレイが天井にあったなら、青空や星空だって美しくつくりだすことができるのです。また大学の授業を自宅で学ぶことだって…暮らす場所を問わず、可能性は無限に広がっています。あなたならどんな使い方でもどんな未来を描きますか？今年はそのディスプレイの使い方について様々なアイデアを求め、コンテストも企画しています。

スマート未来ハウスには、いろいろな職種の方々はその可能性に注目し、日本、そして世界各国から訪れています。見て触れて体感し、そこで生まれた発想から共同研究を進め、新たな商品の開発を検討しているのです。同時に、私たちの研究に対する意見も伺いながら、大学の研究現場にフィードバック。基礎研究から戻し、さらなる開発を進めています。木工や建具、伝統的な匠の技術、そして山形の歴史ある企業の商品、様々な方がここを訪れ何かをひらめき、私たちの最先端の技術と融合すれば、新たな商品が生まれるかもしれません。もっともっと多くの方に足を運んでいただき、いろいろなアイデアと発想で展開してほしいと思います。4月からは一般向けにも公開予定です。予約や問い合わせについては、本学部のホームページからご覧ください。



ごあいさつ

工学部後援会副会長 渡部慶蔵

昨年6月の理事会で副会長に選任されました昭和51年化学工学科卒の渡部と申します。卒研では旋盤で実験装置を自作し、寝袋を持ち込んで徹夜で実験したことを今でも懐かしく思い出します。卒業後は、工業高校の教員として38年間奉職しました。山工大工学部では、工業高校の生徒にも推薦入学制度を導入して向学心に燃える生徒に門戸を広げていただきました。この紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

さて、後援会では組織の一層の充実を図るために他大学の視察を実施しておりますが、今年度は昨年12月18日に埼玉大学を訪問しました。同大学は全学部が同じキャンパス内にあるため敷地も

広大で、図書館や学生会館、学生寮等の厚生施設も大変充実しておりました。また、昨年ノーベル物理学賞を受賞された梶田隆章先生が同大学のOBということで大変盛り上がっていました。後援会は全学部を対象にしているため会員数も多く会費の徴収等運営面で御苦労されているようでした。

山工大工学部では、有機ELをはじめとする最先端の技術を世界に向けて発信しております。私は、このような恵まれた環境の中でグローバルな視点を持った工業技術者を育成することが地方創生にも結びつくものと考えております。長谷部会長を補佐し、米沢工業会の皆様とも緊密に連携しながら学生諸君を支援してまいりたいと考えておりますので、よろしく願い申し上げます。

学科(専攻)だより

機能高分子工学科

機能高分子工学科卒業生の最近の進路についてお知らせいたします。2013年3月の卒業生から2016年3月卒業予定者の2016年頭までの状況を見ますと、年度によってばらつきはありますが、就職者は全体の24~35%で、そのうちの4~6割が製造業、続いて公務員、残りは卸売業等様々な業種に就業しています。一方、大学院への進学率は全体の6~7割で、このうち90%以上が本学大学院への進学です。現在では、大企業において研究開発業務に就くためには修士修了が普通です。また、我が国において、現在の大学院博士前期(修士)課程修了者の同年代における比率は、50年前の大学卒業生の比率とほぼ一致するというデータもあり、工学分野においてより専門的な職種を目指すためには、大学院へ進学することは極く一般的なこととなっています。



学生実験の様子

ところで、これまでの当学科卒業生の学内における大学院進学先は、理工学研究科機能高分子工学専攻と有機デバイス工

教育プログラム長 教授 岡田修司

学専攻の2専攻でした。定員は両専攻で55名と、学科定員の50%であり、学内進学希望者を受け入れるのに充分とは言い難い状況でした。しかしながら、2016年4月より、文部科学省が推進する国立大学改革の中で求められている教育研究組織の再編成の要求も受けて、理工学研究科の上記2専攻は、定員65名の有機材料システム研究科有機材料システム専攻に再編されることとなりました。また、定員10名の博士後期課程も設置されます。新研究科では、専門的な教育・研究をより深化させることもさることながら、専門領域を俯瞰的に見据えられるように、関連する周辺分野の知識も取得できるような科目を設置したり、グローバル・実践科目を必修にするなどのカリキュラムの変更が行われます。大学院の拡充を受けて、近々、学科についてもより充実した教育が実施できるよう、カリキュラムの再編等が検討されています。大学院への進学についてのご理解をいただくとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



物質化学工学科

2015年度は就職活動に大きな変化がありましたので、学生の就職活動の方法、物質化学工学科がどのように就職活動をサポートしているかを含めて2015年度の物質化学工学科の就職状況を簡単に報告させていただきます。

学生が就職活動を行う場合、自由応募と学科推薦の2通りの方法があります。自由応募は学生が個人で企業とコンタクトを取り採用試験・面接を受ける方法で、学科推薦は学科に求人を出した企業に学科の推薦状を添えて応募する方法です。学科推薦で内定を得た場合には相当の理由がない限り辞退することはできません。2015年度は経団連が採用選考を遅らせて8月からスタートするという方針を出したため、就職活動はかなり混乱することが予想されました。学科では状況を見守るしかできず、また多くの企業も対応



創成化学演習風景

教育プログラム長 教授 會田忠弘

に苦慮したものと考えられます。学生は8月までは自由応募で就職活動を行い、8月以降は経団連の方針に従う大手企業を学科推薦で受けるといった活動を行い、自由応募で内定した企業を辞退するケースも見られました。結果的には、例年6、7月頃に大方の進路が決まるころ8月以降にずれ込みましたが、内定式が行われる10月初旬では前年とほぼ同様の就職率に達しています。

物質化学工学科では学科に求人を出した学科推薦に当たる企業について学科内のサーバーを通して、学科内の4年生、大学院生が自由に閲覧でき、応募状況等を把握できるシステムを持っています。また、応募方法にも規則を設け、配属された研究室で差がないようにしています。就職先は化学系企業が多いですが、機械や電気、設備等の企業に進む学生も多く、化学系企業以外にも様々な分野の企業で化学系学生を必要としているものと考えられます。



バイオ化学工学科

バイオ化学工学科は、少子・高齢化社会のニーズに応える研究者・技術者の育成を目的に設立され、平成28年4月に6年目を迎えます。現在、工学部の使命の一つとして健康で安心して生活できる社会づくりに不可欠な技術の開発があります。本学科では、社会のニーズに応える人材を育成するために、これまでの化学系学科ではカバーできない部分を補う独自の教育プログラムを実践しています。具体的には、1年次から化学と生物学を総合的に学び、2年次からは専門教育として物理化学、無機・有機化学、生物科学の幅広い分野の講義と実習を行い、化学と生命科学に関する高度な専門知識を学びます。3年次の後期（6学期）には、



卒業研究中間発表会(4年生)の様子

先端研究を通して実践的な研究手法を学び、みずから適切に判断できる能力を備えた専門技術者・研究者を

教育プログラム長 教授 阿部 宏之

養成するために各研究室に仮配属します。4年次では就職か大学院進学かの選択を行います。本学科学生のおよそ半数は大学院へ進学します。



本学科は、農学部や薬学部など工学部以外の学部の受験を考えていた学生が多く入学してくるのが特徴です。このような学生のニーズに応えるために、医療、創薬、環境、エネルギー分野の先端研究を行っている教員を配置し、教育及び研究のレベル向上や設備の面での充実を図っています。また、卒業生の受け皿となる就職先の開拓や進学に向けて万全の体制をつくってまいりました。お陰様で、卒業生・修了生の多くは化学系企業や製薬・医療系の企業に就職しており、学科の知名度が上がるとともに、企業からの求人も順調に伸びています。

バイオ化学工学科は、これから着実に実績を積み上げていかなければなりません。保護者及び後援会の皆様方の温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

応用生命システム工学科

グローバル化やICTを中心とした技術の進歩によって社会がダイナミックに変化しつつあるように感じられる昨今ですが、高齢化社会の進展で、生命、生活、健康の質的支援を行うヘルスケア産業はこれから有望な産業分野として期待されています。対話型ロボットや知的家電、医療・診断介護システム、高齢者生活支援技術、ヘルスケアなど人間との交わりが重視される機器・システムの設計や技術開発は益々重要性を増してくるものと思われます。これらの分野はまさしく当学科がカバーする研究分野です。学科及び専攻の今年度の就職・進学状況ですが、景気動向を反映し内定率は27年12月末時点で、すでに大学院、学部とも100%となっております。多くは医療機械や自動車関連、情報通信企業へ内定しました。4年生56名の内24名が大学院に進学します。社会人基礎力を養成するために本学科では特別演習という科目を3学期に亘って開講



研究室対抗フットサル大会

しています。2年生から研究室に入りし興味ある研究や演習に取り組み、早くから自分の得意分野や核と

教育プログラム長 教授 新 関 久 一

なる競争力を養成し、進路に結び付けてもらいたいと考えています。



本学科は医学部の協力講座を加えると18の研究室があり、毎年学生有志が企画して研究室対抗のバレーボールやフットサル大会を開催しています。大会前までにオリジナルユニフォームを作成して試合に臨む研究室もあり、日頃の研究の疲れを癒し学生同士の友好を深めるのに役立っています。保護者の方には北海道・東北、関東・甲信越、西部・中部地区で開催される懇談会を通して学科の状況をお伝えしていますが、今年度は合わせて20名ほどの保護者の方に出席いただきました。懇談会では個別の修学状況、学科の教育システム、進級・卒研着手条件、進路就職状況などについてご説明しております。保護者の皆様にとって離れて暮らしているお子さんの大学生活が気がかりとは思いますが、何かご心配なことがあれば学科HPを参考にメールでご連絡ください。またご意見等あれば遠慮なくお寄せください。保護者の皆様から寄せられたご意見をもとに、より良い教育システムになるよう心がけたいと思っております。

情報科学科

情報科学科では、今年度着任された齋藤歩准教授、鈴木郁美助教を加えて、総勢19名の教員と6名の職員が学生の教育・研究の指導にあたっています。

情報科学科の教育理念は「情報科学の基礎理論からそれらに応用した種々の分野を学び、新しい分野を切り開く能力を体得する」というものであります。この理念に基づいて、学生は1、2年次に基礎をしっかり学び、3、4年次に応用力並びに卒業研究を通して新しい分野を切り開く能力を体得しています。

教員の研究分野は多岐にわたっていますが、大きく分けると、「知的情報処理」、「コミュニケーション」、「計算機工学」、「数理科学」、「センシング」の5分野に分類でき、こ



卒業祝賀会の風景

の中には、最近注目されている、「ビッグデータ」や「人工知能」さらには「IoT（モノのインターネット）」の研究を行っている教員も多数

教育プログラム長 教授 小山 明 夫

います。学生は、これらの分野の研究課題に対して、日夜模索しながら自分なりの解決法を見出しています。この経験が、将来社会に出てから役立っていくことを願っています。



次に進路に関してですが、今年度は昨年度より4か月遅れの就職活動開始にもかかわらず、昨年同時期(12月)より内定率が上回っていて、ほぼ100%となっています。内定先は75%が情報通信やソフトウェア産業で残りがその他の産業や公務員となっています。また、進学に関しては、希望者のほとんどが本学大学院に合格していますが、他の学科に比べて大学院進学率が低いように感じられます。大学院では、専門分野をより深く学ぶことにより、研究者・技術者としての高いスキルを身につけることができると思っていますので、希望者が増えることを願っています。

最後になりますが、今後も情報科学科の教職員一丸となって学生の教育や研究指導および進路指導に努力してまいり所存でございますので、保護者並びに後援会の皆様のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

電気電子工学科

電気電子工学科では、基礎学力と応用力を備え、高度電子化社会で貢献できる自立した人材の育成をめざしています。近年、スマートフォン、ゲームの普及とともに物作りの経験が少なく、電気電子工学科を志望してきてラジオ製作などのエレクトロニクス工作を経験したことがある学生が非常に少なくなってきています。その一方で、社会からはチームで協力して課題を解決する能力などが求められています。本学科では、与えられた条件のもとで発電機や受信機を作成し、その性能をチーム対抗で競うグループプロジェクトを10年前から行ってきています。最近では「モノのインターネット（IoT）」という言葉が頻繁に見聞きするようになってきたと思います。例えば、冷蔵庫の扉にディスプレイの機能を組み込みネット情報を表示できるようにするなど、身の周りのあらゆる物がネットに接続され情報をやり取りできることを意味しています。このような



グループプロジェクト発表風景

ネットとつながった電気製品の開発のためには、従来の電気電子工学の知識に加え、それ

教育プログラム長 教授 稲葉 信 幸

を動かすためのプログラミングやネット関係の知識も必要となってくることから、このニーズに対応できるように改革を進めていく所存です。



従来の就職活動では、3年生の12月に会社説明会が解禁され、4年生の4月から選考が開始される日程でしたが、本年度は説明会解禁が3月に、選考開始が8月に後ろ倒しとなり就職活動の日程が大きく変わりました。このような状況のなかで12月末時点での就職内定状況は大学院100%、学部97%であり、あまり影響をうけなかった結果となっています。電気系メーカーでは業績の回復が鮮明になったメーカーと厳しいメーカーにはっきり分かれてきていますが、ハイブリッド自動車のように電気技術が多用されてきており、他業種でも電気技術者が必要とされています。今後はIoTの拡大に伴い、より多くの人材が求められると思います。一方、学生諸君は、就職できるときに就職したほうが良いとの考えから学部卒で就職する傾向が見うけられますが、自分が何をやりたいかを考え、大学院で専門性を深めてから社会に巣立って行くことも一考してもらいたいと思っています。

今後とも皆様のご理解、ご支援をお願い申し上げます。

機械システム工学科

機械システム工学科では、現在28名の教員と12名の職員が学生の教育を担当・支援しています。機械系学科としては全国的に見ても教員数が多い方です。最先端の研究を行っている様々な教員から最新で多様な知識を学ぶことができる本学科は、学生達の知的好奇心や産業界の要望に十二分に答えられる陣容を誇っています。昨年はJABEE（日本技術者教育認定機構）から認定通知を受け取りました。2014年度から2019年度までの6年間の認定です。本学科は2004年にJABEE認定を受け、以来ほぼ5年毎に審査を受けています。審査結果には、『教職員一丸となって積極的に教育プログラムに取り組まれている』と嬉しい評価を頂きました。

また、学科には、友誼会と呼ぶ同窓会組織があります。下の写真は、昨年3年生が工場見学のために関東へ行った際、歓迎会を開催して頂いたときの写真です。100年



工場見学会でのOBによる歓迎会

を超える歴史の中で連続と続くOBが現役学生諸君を支えて下さっています。

一方、多様化し、専門化する

教育プログラム長 教授 妻木 勇一

機械工学を学ぶためには学部での4年間だけでは必ずしも十分ではなくなってきました。そのような背景の中、約半数の学生が大学院へ進学しています。院生になると専門的な教育を受けるだけでなく、論文作成や学会発表を通して、研究者としての素養も磨くことが出来ます。後輩の指導など、研究室での役割も増え、リーダーシップも養うことができます。国際会議で発表する学生も増えています。院生に対する企業からの評価も高いですので、大学院への進学もぜひご検討下さい。



本学科を選んだこと、機械エンジニアとしての道を志したことに對し、とても良い選択をしたねと学生に話しています。機械工学はこれまでも、これからも産業の基盤であり、より良い未来を切り拓くために欠かせない分野です。また、様々な分野のエンジニアを取りまとめプロジェクトを遂行していく面白い職業でもあります。社会のニーズに応え、世界で活躍できる機械エンジニアを育成するために引き続き鋭意努力し続けますので、保護者の皆様のご協力とご支援をお願い申し上げます。

システム創成工学科

先日、システム創成工学科7期生となる生徒との懇談会を行いました。学科発足当初は、山形、福島、秋田、岩手、宮城、新潟あたりから学生が応募してくるだけでしたが、本年度の合格者の中には岐阜県や千葉県出身者もあり、全国から学生が集まるようになってきました。また、在学生の弟や妹も合格者に含まれ、保護者の方からも一定の評価を頂いていることがわかります。

これにともなって、入学してくる学生の気質も変わってきたように思えます。一期生は、個性的で優秀な学生が多く、教員とともに学科の礎を築いてくれた功労者たちであることは間違いありません。それ以降も、少々勉学精神に欠ける学生が混ざってはいるものの、個性的な学生が多く入学しており、これが学科の特徴の一つにもなっていました。しか



2014年度
ポスターセッションの風景



2015年度
オリエンテーションの風景

教育プログラム長 教授 近藤 康雄

し、ここ1~2年は、いわゆる優等生タイプの学生の割合が増えてきたような気がします。そのせいか、要領の良さだけが目立つ学生が増え、難しい授業は履修しない、米沢市主催のセカンドホーム事業のような勉強とは直接関係しない授業には参加したくない、という学生が増え、好奇心やチャレンジ精神はどこへ行ってしまったのかと思います。自分の専門分野を見つけ、その能力を磨くことだけでなく、立派な社会人となるために必要な人間力を養成することも大学生の仕事であることを忘れないでほしい。



また、仲間と一緒に、すなわちチームで何かをやる、ことが苦手なようです。某世界一企業の面接で最も重要視されているのが“チームにおける活動歴”です。“あなたが剣道2段になることは、剣道部の発展にどのような貢献をするのか？”こんな質問に答えられるような自分磨きも必要な時代のようです。

有機デバイス工学専攻

有機デバイス工学専攻は平成28年4月に10年目を迎えます。有機材料・高分子材料といえば、「山形大学工学部」と全国的にも認知されたと自負しております。本専攻は、従来の学問体系の枠組みを超えて、有機デバイスの専門的知識を持った人材の育成を目的として設立され、既に多くの修了生を輩出してきました。平成28年3月に修了予定の第8期学生は32名であり、社会的に就職状況も厳しい中、100%近くの学生が就職もしくは博士後期課程に進学されました。

本専攻の現状として、平成28年度からは機能高分子工学専攻と一緒に、新たな大学院研究科が発足します。新研究科新専攻では、4月からの博士前期の学生定員は65名となります。定員を上回る学生が博士前期課程に入学予定です。高分子・有機材料、さらにそのデバイスという研究分野で、世界最先端の研究・教育に触れたいという学生が多いことによるものと感じております。



平成27年度山形県科学技術賞受賞式の様子

平成27年度の話題としては、3月に本専攻の先生方が中心になって申請した「フロンティア有機システムイノベーション拠点」が

専攻長 教授 伊藤 浩 志

文部科学省と独立行政法人科学技術振興機構が推進するセンター・オブ・イノベーション(COI)プログラムに採択されました。山形大学は本拠点を通して、将来の健康で感性豊かな生活・社会の実現を目指しております。また、2015年3月に山形大学有機材料システム研究推進本部が発足しました。有機材料に関する8センターを統括し、有機材料分野の研究拠点化を推進することになりました。



おめでたいニュースです。時任静士卓越研究教授は、「印刷型有機薄膜トランジスタの研究」の功績により、平成27年度文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)を受賞されました。また、あわせて平成27年度山形県科学技術賞も受賞されました。本分野の研究は益々活発に行われ、数多くの成果を世に出しております。

これらの多大な成果は、決して教員個人の能力が優れているからだけではなく、学生諸君の協力と成長によるものでもあります。本専攻で学ぶ学生たちのモチベーションは高く、精力的に勉学に励んでいます。このように本専攻では最先端の研究開発を通して、旺盛な好奇心を持ち意欲ある学生の育成を行っております。今後とも皆様方の温かいご支援を宜しくお願い申し上げます。

ものづくり技術経営学専攻

2015年は政策誘導もあり、設備投資の積極化、自動車などの主要産業関連での日本企業の業績改善が進みました。しかし、地方あるいは中小企業、個人レベルでは景気が良くなったという実感は乏しいところです。暖冬、台風など地球規模の自然環境も不確定要素を増し、先の予測が益々難しくなっています。

2016年は価値創成に関して、どんな価値を、誰のために、誰が、どうやって創成するのか、その検討と実践が今まで以上に求められています。本専攻では、さらにグローバル連携を深め、多様性と専門性を充足しながら、地域社会はもとより、世界に発信できる教育研究を推進します。

グローバル研究連携: 人文学部と共同で活動中のYU-COE(C)プロジェクト「地域価値創成に貢献するUniversity Entrepreneurship」の一環として、2015年11月に、イギリス・シェフィールド大学および台湾・成功大学の研究者が、山形地域の地域連携活動および企業視察に訪れました。2015年度中に、イギリスと台湾への訪問調査研究も予定しています。各々の地域特性を比較研究しつつ、今後もグローバルな研究・実践的成果獲得に向けて協力していきます。

留学生: 2015年9月にボリビア国費留学1期生が修了し、新たな活躍の場へと第一歩を踏み出しました。母国に帰り、修士論文研究の成果を活かせる部署で元職場に復帰して仕事をスタートしたり、グローバル企業に就職したり、社会人として再



平成27年度9月学位記授与式の風景

専攻長 教授 兒玉 直 樹

始動しています。10月には3期生4名が入学しました。ボリビアからの日系留学生は山形県内企業に就職し、ルーマニアの工場に赴任しました。東南アジアからの留学生も含め、卒業生の進路もさらにグローバルになっています。トヨタ、デンソー等の日本を代表する製造企業に賛同いただいた特別講義実施も今年で3年目になり、ボリビア留学生はもちろん、アジアからの留学生や日本人学生も参加しました。また、日本人学生が留学生チューターとなり、クロスカルチャーの刺激をますます深めています。



社会人学生: 社会人経験を活かして、具体的企業の戦略における国際比較研究、あるいは、自ら新興国で起業して、イノベーションを起こす実践とその理論化など、アクティブなグローバル研究が増えています。研究支援員兼学生の地元金融機関出向者は引き続き研鑽を続け、製造業出身学生も学内のYU-COE(C)プロジェクトの研究支援員として地域価値創成と大学の役割について、幅広い調査研究に携わっています。

県内重要課題対応: 製造業の他にも、「やまがた6次産業ビジネススクール」への協力、J R東日本協力の「観光経営工学特論」公開講座、観光関連の特別セミナーなどを今年も開講します。

このように本専攻は、研究のグローバル化と、それを地域に還元できる教育の取組みを深めようとしています。2016年は、「地域価値創成」の実践成果も期待されます。実践をベースに理論化、体系化する取組みについても、さらに強力で進めていきます。

皆様のおお一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成27年度卒業・修了予定者の就職内定・進学予定先一覧

1. 工学部

(平成28年1月末現在)

コース	学科	就職内定先・進学予定先	(順不同)
昼 間 ・ A コ ー ス	機能高分子工学科	NOK(株)(2人)、(株)王将フードサービス、(株)北村製作所、(株)クレハ分析センター、(株)大昌電子、(株)高木化学研究所、(株)東北芝浦電子、(株)永島製作所、(株)ノエビア、(株)ミルボン、(株)ユーバーツ、(株)ワイズマン、岐阜プラスチック工業(株)、グローバルライフ(株)、サントリービバレッジサービス(株)、新日本テクノカーボン(株)、スタンレー電気(株)、セコムエンジニアリング(株)、ソニーセミコンダクタ(株)、第一化成(株)、田島ルーフィング(株)、タマホーム(株)、テクノ・マインド(株)、天昇電気工業(株)、東海化学工業(株)、南条装備工業(株)、日進工業(株)、日本重化学工業(株)、ホクレン農業協同組合、前田製缶(株)、山形パナソニック(株)、ヤマト運輸(株)、リケンテクノス(株)、渡辺ヒーティング(株)、公務員(5人)(経済産業省、日光市職員、大石田市職員、酒田市職員、藤枝市職員)、山形大学大学院(73人)	
	物質化学工学科	YKK(株)、アルファレッサファインケミカル(株)、伊藤ハムデイリー(株)、(株)かわでん、(株)小森マシナリー、(株)コヤマ、(株)大昌電子(2人)、(株)中央製作所、(株)津田商店、(株)寺岡システム、(株)東邦銀行、(株)トッパンTDKレーベル、(株)ニッカトー、(株)ニフコ山形、(株)ハラチュウ、(株)福島理学研究所、(株)ユアテック、(株)リード、ジーエルサイエンス(株)、ジークライト(株)、新菱冷熱工業(株)、セイシン企画(株)、千住金属工業(株)(2人)、太子食品工業(株)、ダイナパック(株)、東芝ホームテクノ(株)、東北エプソン(株)、日星電気(株)、ニプロ(株)、日本原燃(株)、日本重化学工業(株)、日本フィルター(株)、プラス・テック(株)、古川エヌ・ディー・ケー(株)、ボーライト(株)、北海道旅客鉄道(株)、ユニアデックス(株)、吉野石膏(株)、山形大学大学院(29人)、東京工業大学大学院(2人)、東京大学大学院、東京農工大学大学院	
	バイオ化学工学科	JA全農、科研製薬(株)、(株)Speee(2人)、(株)旭ブレインズ、(株)エコム、(株)金属被膜研究所、(株)グレーストーン、(株)ジェイデバイス、(株)ダイガロン、(株)電緑、(株)ニフコ山形、(株)バイオテック、(株)ライフフーズ、高砂冷熱工業(株)、日本クッカーリー(株)、東日本旅客鉄道(株)、不二テックス(株)、朋和産業(株)、公務員(1人)(皇宮警察)、山形大学大学院(32人)、岐阜大学大学院、東北大学大学院(2人)、徳島大学大学院、東京工業大学大学院	
	応用生命システム工学科	(株)シリウス、(株)ビーブレイクシステムズ、越後製菓(株)、(株)DNP情報システム、(株)アウトソーシングテクノロジー、(株)エスイーシー、(株)フォーラムエンジニアリング、(株)レダ、(株)セントラルシステムズ(2人)、テクノ菱和、(株)ハイテックシステムズ、(株)日立システムズ、(株)日立ビルシステム(2人)、(株)富士通ビー・エス・シー、ケーエムケワールド(株)、コムコ(株)、東光電気工事(株)、東光タウンプランニング(株)、東北電力(株)、東北バイオニアEG(株)、東北バイオニア(株)、(株)日立パワーソリューションズ、北陸コンピュータ・サービス(株)、三菱ビルテクノサービス(株)、山形パナソニック(株)、山形航空電子(株)、公務員(2人)(東北管区警察局長、防衛省)、山形大学大学院(15人)、山形大学大学院医学系研究科、東北大学大学院	
	情報科学科	AWS(株)、NDソフトウェア(株)、NECエンデットプロダクツ(株)、青森放送(株)、アドソル日進(株)(3人)、(株)DNP情報システム、(株)Going、(株)NS・コンピュータサービス、(株)TKC、(株)アマダホールディングス、(株)エスアイインフォジェニック、(株)エスイーシー、(株)協栄システムズ、(株)ソフトウェアコントロール、(株)パーズ情報科学研究所(3人)、(株)日立ビルシステムズ、(株)プロディジ、(株)モバイルテクノ、(株)ユアテック、カメイ(株)、サイバーコム(株)、自営、ソフトクリエイティブホールディングス(株)、東京エレクトロニクス(株)、トヨタ自動車(株)、日本コープ共済連合会、日本証券テクノロジー(株)、日本食研(株)、日本無線(株)、日立INSソフトウェア(株)、福島信用金庫、富士通ミッドウェアソリューションズ(株)、三菱総研DCS(株)、ルネサスエレクトロニクス(株)、(株)アッツ、(株)アルプス技研、(株)カーネルコンセプト、(株)ニッセイコム、(株)東日本計算センター、(株)山形テレビ、吉田製作所(株)、公務員(2人)(酒田市職員、田子町職員)、山形大学大学院(21人)、東北大学大学院(2人)、九州大学大学院、埼玉大学大学院	
	電気電子工学科	FANUC(株)、NECネットワークプロダクツ(株)、REVSONIC(株)、アルプスシステムインテグレーション(株)、沖ウインテック、沖電気工業(株)、オリエンタルモーター(株)、(株)ケイテック、(株)ケーヒン、(株)ティエム2、日立産機システム(株)、(株)日立ビルシステム、(株)ビューエンス、(株)メイテック、北芝電機(株)、京三電機(株)、コーセル(株)、シークス(株)、シーケーエンジニアリング(株)、東北電力(株)、東北発電工業(株)、東洋製罐(株)、日特エンジニアリング(株)、日本電設工業(株)、裕幸計装(株)、三菱電機ビルテクノサービス(株)、山形スバル(株)、東芝機械(株)、ユアテック(株)(2人)、公務員(4人)(東京特別区員、山形県庁職員、新潟県職員、東北地方整備局員)、山形大学大学院(29人)、山形大学大学院医学系研究科、横浜国立大学大学院、大阪大学大学院、東京工業大学大学院、東北大学大学院	
機械システム工学科	(株)日産テクノ、(株)彌満和製作所、(株)BSNアイネット、NOK(株)、SMC(株)、THK(株)、YKK AP(株)、YKK(株)、アイリスオーヤマ(株)(2人)、アリオンテック(株)、アルプス電気(株)(2人)、いすゞ自動車(株)、(株)DRD、(株)アステック、(株)アルテクナ、(株)大宮電化、(株)シークス、(株)竹中工務店、(株)チノー、(株)システムプロ・デザイン社、(株)パナソニックシステムネットワークス開発研究所、(株)福島製作所、(株)山本製作所、(株)ユアテック、(株)ワールドインテック、古河機械金属(株)、サクサテクノ(株)、山九(株)、山洋工業(株)、スズキ(株)(2人)、住友コマテリアルハンドリング、セイコーエプソン(株)、西部鉄道(株)、セントラル硝子(株)、大成設備(株)、東北エプソン(株)、東北電力(株)、トヨタ自動車(株)、トヨタ自動車東日本(株)、日特エンジニアリング(株)、日本通運(株)、林テレンプ(株)、東日本旅客鉄道(株)、富士重工業(株)、富士電気(株)、ミドリホクヨー(株)、山形航空電子(株)、菱機工業(株)、公務員(3人)(陸上自衛隊員、栃木県警、仙台市職員)、山形大学大学院(44人)、東北大学大学院		
フレックス・Bコース	システム創成工学科	(株)カンセツ、KYB(株)、SEC(株)、アイエイ・コーポレーション(株)、曙ブレーキ工業(株)、イハラサイエンス(株)、カネ美食品(株)、(株)かわでん、(株)北村製作所、(株)ケーヒン、(株)小糸製作所、(株)ヤマショー、関電システムソリューションズ(株)、サイバーコム(株)(2人)、(株)サンフレックス永谷園、シロキ工業(株)、セコム工業(株)、第一建設(株)、テクノ・モリオカ(株)、東北電機製造(株)、東洋刃物(株)、ニチレイフーズ(株)、日本航空電子(株)、日本信号(株)、日星電機(株)、ルービィ工業(株)、公務員(2人)(岩手県庁職員、東北運輸局員)、山形大学大学院(19人)	
	情報科学科	(株)ケーデーシー	

2. 大学院理工学研究科博士前期課程(工学系)

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
機能高分子工学専攻	NOK(株)、アキレス(株)、伊藤忠ネクス(株)、オカモト(株)、(株)JSP、(株)アデランス、(株)カネカ、(株)白石中央研究所、(株)セブン&アイフードシステムズ、(株)日本色材工業、(株)ユーグレナ、(株)エポ・コーポレーション、技研(株)、神戸理化学工業(株)、興和(株)、コニシ(株)、綜研化学(株)、ダイハツ工業(株)、デクセリアルズ(株)、電気化学工業(株)、東洋合成工業(株)、トヨタ自動車(株)、トヨタ自動車東日本(株)、日油(株)、日本CNK(株)、日本化薬(株)、日本特殊塗料(株)、富士重工業(株)、富士房ホールディングス(株)、プラス・テック(株)、北海道曹達(株)、wing(株)、ミズノテクニクス(株)、矢崎総業(株)、ヤマウチ(株)、横浜ゴム(株)、リンテック(株)、山形大学大学院博士後期課程(1人(内:フレックス大学院1人))	
有機デバイス工学専攻	NECトーキン(株)、NOK(株)(2人)、上野製薬(株)、(株)オーエス、(株)クレハ環境、(株)ジャパニーズプレイ、(株)村田製作所、鬼怒川ゴム(株)、グンゼ(株)、田島ルーフィング(株)(2人)、東北バイオニア(株)、東洋ゴム工業(株)、東レエンジニアリング(株)、トーカドエナジー(株)、日弘ビックス(株)、日本軽金属(株)、日本バーカライジング(株)、日本ミクトラン(株)、日立化成(株)(2人)、富双合成(株)、双葉電子工業(株)、フルヤ金属(株)、ミックロン精密(株)、矢崎総業(株)、ヤマウチ(株)、横浜ゴム(株)、レノボ・ジャパン(株)、山形大学大学院博士後期課程(2人(内:フレックス大学院2人))	

物質化学工学専攻	DIC(株)、SOLIZE-Engineering(株)、アキレス(株)、曙ブレーキ(株)、出光興産(株)、(株)IHI、(株)SUMUCO、(株)アサカ理研、(株)高研、(株)タキキ、(株)トッパン TDKレーベル、(株)ニクニ白鷹、川研ファインケミカル(株)、関東化学(株)、山栄化学(株)、(国研)産業技術総合研究所、新興プランテック(株)、スズキ(株)、住友化学(株)、ソニーケミコンダクタ(株)山形テクノロジー、大王製紙(株)、タキロン(株)、デクセラアルズ(株)、東洋合成工業(株)、日新製薬(株)、日鐵住金溶接工業(株)、日本原燃(株)、日本重化学工業(株)、日立オートモティブシステムズ(株)、日弘ビックス(株)、三井金属アクト(株)、三菱ガス化学(株)、横浜ゴム(株)、米沢浜理薬品工業(株)、レンゴー(株)、公務員(1人)(須賀川市職員)、山形大学大学院博士後期課程(3人(内:フレックス大学院1人))
バイオ化学工学専攻	JFEエンジニアリング(株)、アイシン・エイダブリュ(株)、伊藤電子(株)、(株)JSR、(株)イノアックコーポレーション、(株)タキロン、(株)ハーベス、(株)横浜油脂工業、(株)ロキテクノ、川口化学工業(株)、コカミノルタ(株)、第一ファインケミカル(株)、大東化成工業(株)、大日本印刷(株)、朝陽インテック(株)、ディップソール(株)、東和薬品(株)、藤倉航装(株)、富士電機(株)、丸木医科器械(株)、三菱レイオンアクアソリューションズ(株)、ミドリホクヨー(株)、山崎製パン(株)、吉田プラ工業(株)、公務員(2人)(航空自衛隊員、青森県庁職員)、山形大学大学院博士後期課程(3人(内:フレックス大学院1人))
応用生命システム工学専攻	(株)ベイカレント・コンサルティング、NDソフトウェア(株)、(株)アイシーエース、(株)エムティーアイ、(株)東芝、(株)日立製作所インフラシステム社、(株)日立ソリューションシステムズ、(株)ワールドインテック、キッセイコムテック(株)、古河電気工業(株)、ソニーイーエムシーエス(株)、東芝ソリューション(株)、東北NSソリューションズ(株)、東洋製織(株)、トヨタ自動車(株)、トヨタ自動車東日本(株)、ニプロ(株)、日本光電工業(株)、日本電設工業(株)(2人)、東日本旅客鉄道(株)、フクダ電子(株)、マーレエンジンコンポーネンツジャパン(株)、公務員(1人)(厚生労働省山形労働局員)、山形大学大学院博士後期課程(1人)
情報科学専攻	GMOペパボ(株)、NECソリューションイノベータ(株)、会津オリンパス(株)、(株)NEC情報システムズ(2人)、シーケーエンジニアリング(株)、シンプレス(株)、住友電装(株)、通建電気興業(株)、テクノ・プロ・デザイン(株)、東北NSソリューションズ(株)、東北電力(株)、日本光電工業(株)(2人)、三菱電機インフォメーションシステムズ(株)、ユニバーサル・インフォメーションサービス(株)、(株)BFT、(株)ソリトンシステムズ、(株)ハイマックス、(株)パナソニックシステムネットワークス開発研究所
電気電子工学専攻	NECエンジニアリング(株)、NECエンベデットプロダクツ(株)、アイジー工業(株)、アイデン(株)、アポットジャパン(株)、アルパイン技研(株)、(株)京三製作所、(株)東芝、新電元工業(株)、スタンレー電気(株)、デンソーテクノ(株)、東海理化(株)、東北インテリジェント通信(株)、東北電力(株)(3人)、東北バイオニア(株)、トヨタ自動車(株)、日本工営(株)、日本光電工業(株)、日本電子(株)、日本特殊陶業(株)、パナソニック(株)、東日本旅客鉄道(株)、菱電湘南エレクトロニクス(株)、日立国際電気(株)、フジクラ電装(株)、富士重工業(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、ユアテック(株)
機械システム工学専攻	(株)島津鉄金、JFE条鋼(株)、NOK(株)(2人)、(株)NTTデータインターネットマート、YKK AP(株)、河西工業(株)、(株)エフテック、(株)岡村製作所、(株)ケーヒン、(株)小松製作所、(株)小森コーポレーション、(株)シグマ、(株)チノー、(株)ツガミ、(株)フジキン、(株)フジクラ(2人)、(株)ユニプレス、(株)リコーテクノロジー(2人)、(株)ワールドインテック、川崎重工業(株)、北芝電機(株)、三和機材(株)、シーケーエンジニアリング(株)、スズキ(株)(2人)、テルモ(株)、東京エレクトロン宮城(株)、東北電力(株)、トヨタ自動車東日本(株)、日特エンジニアリング(株)、日本光電工業(株)、パナソニック(株)、東日本電信電話(株)、東日本旅客鉄道(株)、日立金属(株)、富士重工業(株)(2人)、三菱アルミニウム(株)、三菱マテリアル(株)、リコーインダストリー(株)、公務員(2人)(海上自衛隊員、和歌山県職員)、山形大学大学院博士後期課程(2人(内:フレックス大学院2人))
ものづくり技術経営専攻	有職者(3名)、北陸紀州製紙(株)

3. 大学院理工学研究科博士後期課程（工学系）

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
有機材料工学専攻	有職者(2人)、三井・デュポンポリケミカル(株)、アイリスオーヤマ(株)、(国研)物質・材料研究機構	
バイオ工学専攻	有職者(2人)、(株)カネカ、常習工学院(講師)	
電子情報工学専攻	カセットサート大学理学部(講師)	
機械システム工学専攻	プロメテックソフトウェア(株)	

平成26年度 卒業・修了者の就職状況

(平成27年4月末現在)

学科・専攻別 事項	工学部 昼間・Aコース							工学部 フレックス・Bコース					大学院理工学研究科 博士前期課程										合計
	機能高分子工学専攻	物質化学工学専攻	バイオ化学工学専攻	応用生命システム工学専攻	情報科学専攻	電気電子工学専攻	機械システム工学専攻	システム創成工学専攻	物質化学工学専攻	機械システム工学専攻	計	機能高分子工学専攻	有機デバイス工学専攻	物質化学工学専攻	バイオ化学工学専攻	応用生命システム工学専攻	情報科学専攻	電気電子工学専攻	機械システム工学専攻	ものづくり技術経営専攻	計		
卒業・修了者数	(9)	(20)	(36)	(10)	(1)	(1)	(4)	(81)	(3)	(0)	(0)	(3)	(3)	(1)	(7)	(7)	(3)	(1)	(0)	(0)	(1)	(23)	(107)
就職希望者数	(2)	(11)	(17)	(3)	(0)	(1)	(1)	(35)	(3)	(0)	(0)	(3)	(3)	(1)	(6)	(6)	(2)	(1)	(0)	(0)	(1)	(20)	(58)
就職者数	27	37	30	31	42	52	38	257	22	2	2	26	36	23	38	25	26	22	33	44	7	254	537
自営希望者数	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
自営者数	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
進学希望者数	(6)	(9)	(18)	(5)	(1)	(0)	(2)	(41)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(2)	(43)
進学者数	75	45	29	29	26	30	59	293	14	0	0	14	0	1	2	1	1	0	1	0	0	6	313
その他	(1)	(0)	(1)	(2)	(0)	(0)	(1)	(5)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(6)
就職者数	4	1	1	5	6	1	12	30	1	0	0	1	3	0	1	2	1	0	0	1	1	9	40
就職者数	(2)	(11)	(17)	(3)	(0)	(1)	(1)	(35)	(3)	(0)	(0)	(3)	(3)	(1)	(6)	(6)	(2)	(1)	(0)	(0)	(1)	(20)	(58)
未就職者数	25	36	30	31	42	51	38	253	22	2	2	26	36	23	38	25	26	22	33	43	7	253	532
未就職者数	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
就職決定率(%)	2	1	0	0	1	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	6
就職決定率(%)	80.6	94.7	96.8	86.1	85.7	96.2	76.0	87.8	95.7	100.0	100.0	96.3	92.3	100.0	97.4	92.6	96.3	100.0	100.0	95.6	87.5	96.2	92.0

[注] () 内の数字は女子を示し内数である。

キャリアサービスセンターだより



理系の就職活動と今後の展望

キャリアサービスセンター長 中島 健介

(大学院理工学研究科 電気電子工学分野 教授)

2015年は、日本経済団体連合会の定める新卒採用活動に関するガイドラインが改訂され、2012～2015年の新卒者までは企業の採用広報活動が、最終学年前年（学部3年次、博士前期1年次）の12月から始まり、最終学年の4月から選考活動が開始されるという就職スケジュールが、それぞれ広報活動は最終学年前年の3月から選考活動は8月からに変更されました。工学部独自に開催する企業説明会もそれに合わせて従来の12月開催から2015年3月7日(土)、8日(日)へと日程を変更し、大学推薦書の発行も8月1日以降へと変更を余儀なくされました。さらに、このガイドライン改訂が就職活動の長期化を招いたという反省からガイドラインは再び改訂され2017年新卒者を対象とする選考活動は最終学年の8月から6月に変更され、今年からは6月から選考が開始されることになりました。まさに就職スケジュールが猫の目のように変わる有様です。

こういった就職活動の変革期にあって工学部キャリアサービスセンターは、巷にあふれる文系理工系入り交えた就職情報に左右されがちな学生諸君、さらにはその保護者の方向けに工学部学生の就職活動の姿を知ってもらい活動に力を入れてまいりました。その一環として10月10日の北海道・東北地区保護者懇談会に併せて開催した「保護者のための就職セミナー」は226名の参加者があり、また「今どきの就職活動」と「理系の就活法」と題した講演に対しては、多くの方からの「我が子にも是非講演を聞かせたい」という要望を受け、12月21日には学生向けに「理工系就職セミナー」を開催しました。毎年600人を超える卒業生、修了生を輩出する山形大学の工学部と大学院理工学研究科は、それだけの学生とそれを受け入れる社会に対する大きな責任を負っているという自覚の下、教職員一丸となってキャリアサービスセンターを中心として就職支援に取り組んでまいります。

なお、ここでご紹介した理工系就職セミナーは、米沢商工会議所から人材確保事業の一環として同所のご協力を得て実施させていただきました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

就職活動と後輩へのアドバイス



工学部応用生命システム工学科 4年

横山 知美

昨年からは就職開始が学部3年の3月になり、さらに今年は選考開始時期が2ヶ月早い6月となりました。エントリーから選考までの期間が一層短くなり、戸惑う人も多いかと思います。短期決戦となった現就活では、今まで以上に早期に準備をしておくことが大切です。

準備の1つとして、皆さんに是非挑戦して欲しいのがインターンシップ (IS) です。私は3年の夏季休業に「大学で学んでいることが社会でどのように活かされ役立っているか知りたい」という理由からISに参加しました。ISが就活に有利になることはありません。しかし多くのメリットがあります。まず、ISは実際に企業などの職場で働く経験が出来る為、その企業の雰囲気や身をもって実感することができます。私が参加したISでは先輩社員に直接お話を聞く機会もいただき、説明会だけでは分からないことを沢山知ることが出来ました。さらに、自分に足りないものは何なのか等ISで学んだことはその後の就活に大いに役立ちました。ISは特に「就活するにも自分が何をしたいか分からない」という人が自己の視野を広げる絶好の機会です。

最後に、就活は楽しんだ者勝ちです。確かに辛くて大変ですが、自分を見つめ直す良い機会でもあります。他大学の就活生や、滅多にお会いすることのない企業の重役とお話することも出来ます。「面接終わったら美味しい物でも食べて帰ろう！」くらい気持ちに余裕をもって、最後まで諦めず頑張ってください。



大学院理工学研究科博士前期課程 有機デバイス工学専攻 2年

佐原 俊也

今年度も就職活動が解禁となりました。就活を行う皆さんは就活をどのように考えていますか？多くの人が工学部の合同企業説明会に参加し、憂鬱な気分になっていると思います。ありきたりなことですが僕なりに就活生へ向けて簡単なメッセージを送りたいと思います。

就活は「周りとの協力と自分自身への自信」がとても大切です。まず3月中は先輩の経験をたくさん聞き、エントリーシート (ES) を添削してもらいましょう。ESは一度形にしてしまえば使いまわしがきくので先輩方が卒業する前にESのコツを伝授していただきましょう。そして就活が進むと待っているのが面接です。面接では自信をもってありのままの自分を出しましょう（自分は無敵と思いつつもでも慢心せずに謙虚な姿で）。聞かれたことに対してありのままの姿かつ自分の言葉でしっかりと受け答えをすることが出来ればきっと面接官の方にも好印象を与えられます。面接で自分をさらけ出して採用されなかったらこの会社とは合わなかったと開き直りましょう。

正直就活は大変です（僕はもう一生やりたくありません笑）。たくさん内定をもらい、すんなり就活が終わる人は少数で大半の人がたくさんのお祈りメールをもらい精神的にきついと思います（僕も志望度が高い企業から立て続けに祈られたときは不眠症になりました汗）。そんな時こそ友人と愚痴をこぼしあい支え合いましょう。大変だと思いますが皆さん頑張ってください！

山形大学工学部後援会会則

(名称及び事務所)

第1条 本会は、山形大学工学部後援会と称する。

第2条 本会は、次に掲げる会員をもって組織する。

- 工学部学生の保護者並びに大学院理工学研究科(工学系)学生の保護者
- 工学部に勤務する教職員
- 本会の趣旨に賛同する者

第3条 本会の事務所は、山形大学工学部内に置く。

(目的及び事業)

第4条 本会は、工学部の教育及び運営に協力し、併せて学生、教職員の福利厚生
の向上を図るとともに、学生の課外活動を育成援助することを目的とする。

第5条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 学生の教育、課外活動及び就職斡旋に必要な助成
- 学生及び教職員の福利厚生に必要な助成
- その他、本会の目的達成に必要なこと。

(役員及び任務)

第6条 本会に、次の役員を置く。

- 会長
- 副会長
- 理事
- 監査
- 幹事

第7条 役員の出選は、次のとおりとする。

- 会長は、会員の推挙による。
- その他の役員は、会長が会員の中から委嘱する。

第8条 役員任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

第9条 役員職務は次のとおりとする。

- 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある場合その職務を代行する。
- 理事は、本会の重要案件を審議する。
- 監査は、本会の会計を監査する。
- 幹事は、本会の会務を処理する。

第10条 本会に、顧問をおくことができる。

(会議)

第11条 本会に、審議決定機関として、理事会を置く。

2 理事会は、会長、副会長、理事及び監査を持って構成する。

3 理事会は、原則として年1回開くものとする。ただし、会長が必要と認めたと
きは、臨時に開くことができる。

4 会長は、理事会を招集し、その議長となる。

第12条 理事会は、次に掲げる事由を審議決定する。

- 会務の報告
- 事業計画に関すること。
- 予算及び決算に関すること。
- 会則の改正に関すること。
- 会長の推挙に関すること。
- その他理事会において必要と認められた事項

(会計)

第13条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもってあてるものとし、保護
者の会費は、入学時または編入学時に全納するものとする。

2 納付した会費は、返還しないものとする。

3 会費の額は、別に定める。

第14条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(準則)

第15条 本会に、次の帳簿を備える。

- 会員名簿
- 役員名簿
- 会議録
- 会計簿

第16条 本会の運営に必要な事項は、別に定めることができる。

附 則

1 この会則は、平成8年4月1日から施行する。

2 山形大学米沢教育振興会規則(昭和23年4月1日制定)及び山形大学米沢体育後
援会規則(昭和25年4月1日制定)は廃止する。

附 則

この会則は、平成12年5月29日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

附 則

この会則は、平成16年6月29日から施行する。

附 則

1 この会則は、平成16年12月15日から施行する。

2 改正後の会費については、平成17年度入学生から適用する。

附 則

この会則は、平成17年12月6日から施行する。

附 則

この会則は、平成21年6月19日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

工学部後援会会費

山形大学工学部後援会会則第13条第3項の規定に基づき、会員が納入する会費は、
次のとおりと定める。

- 学部学生の保護者 26,000円
- 3年次編入学学部学生の保護者 13,000円
- 大学院(博士前期課程)学生の保護者 13,000円
- 大学院(博士後期課程)学生の保護者 19,500円
- 本会の趣旨に賛同する者

平成26年度 一般会計収支決算書 及び 平成27年度 一般会計収支予算書

収入の部

(単位:円)

項 目	平成26年度			平成27年度 予算額
	予算額	収入済額	増減	
会 費	21,053,500	19,688,500	△ 1,365,000	21,521,500
雑 収 入	2,000	1,905	△ 95	2,000
繰 越 金	429,866	429,866	0	776,502
合 計	21,485,366	20,120,271	△ 1,365,095	22,300,002

支出の部

項 目	平成26年度			平成27年度 予算額
	予算額	支出済額	残 額	
1 学科厚生補導費	1,235,400	1,235,400	0	1,252,500
学部学生指導補助費	559,200	559,200	0	572,800
学科行事等補助費	676,200	676,200	0	679,700
2 一般厚生補導費	3,476,000	3,176,938	299,062	3,398,000
国際交流関係補助費	500,000	333,770	166,230	500,000
TOEIC-IPテスト補助費	1,000,000	992,000	8,000	1,000,000
学務関係補助費	600,000	547,784	52,216	550,000
保健管理関係補助費	100,000	20,340	79,660	30,000
理容部運営補助費	400,000	406,504	△6,504	400,000
基盤教育事業後援	876,000	876,540	△540	918,000
3 進路対策補助費	100,000	56,364	43,636	100,000
4 学生研究助成費	900,000	930,324	△30,324	950,000
5 課外活動補助費	400,000	475,610	△75,610	500,000
6 一般体育設備等補助費	400,000	271,911	128,089	400,000
7 厚生施設等環境整備補助費	400,000	212,142	187,858	400,000
8 研修行事等関係補助費	150,000	140,000	10,000	150,000
9 学部渉外関係補助費	1,000,000	362,098	637,902	600,000
10 大学行事補助費	1,700,000	1,509,731	190,269	1,500,000
11 運 営 費	3,050,315	3,142,778	△92,463	3,530,000
広 報 費	550,000	691,662	△141,662	900,000
会 議 費	350,000	304,022	45,978	350,000
通 信 費	20,000	15,050	4,950	20,000
事 務 費 (含人件費)	1,000,000	931,735	68,265	1,000,000
旅 費	150,000	137,462	12,538	150,000
地区別説明会費	850,000	962,523	△112,523	1,000,000
学園都市推進協議会費	100,315	100,324	△9	100,000
雑 費	30,000	0	30,000	10,000
12 積 立 金	500,000	250,000	250,000	1,000,000
13 施設協力金	8,097,500	7,572,500	525,000	8,277,500
14 予 備 費	76,151	7,973	68,178	242,002
合 計	21,485,366	19,343,769	2,141,597	22,300,002

山形大学工学部保護者懇談会 今年度(平成27年度)実施報告と来年度(平成28年度)開催予定

保護者懇談会は、全国を3ブロックに分けて開催するようになってから、今年度で5年目となりました。進学・就職に関する講演や教員と個別に相談する時間も設けています。保護者同士の交流の場としても大変好評をいただいておりますので、ぜひこの機会にご参加くださいますようお願いいたします。

■今年度 実施報告

地域	開催日	開催会場	参加者数
関東・甲信越地区	9/5(土)	メルパルク東京(港区)	70名
北海道・東北地区	10/10(土)	工学部米沢キャンパス	226名
中部・西部地区	11/15(日)	KKRホテル名古屋(名古屋市)	20名

■来年度 開催予定

地域	開催予定日	開催予定会場
関東・甲信越地区	9/11(日)	メルパルク東京(港区)
北海道・東北地区	10/8(土)	工学部米沢キャンパス
中部・西部地区	11/6(日)	KKRホテル名古屋(名古屋市)



飯塚博工学部長
講演の様子



就職セミナー(講演)の様子



学科別懇談の様子

お知らせ

◎学位記授与式・祝賀会のご案内

学位記授与式

日時：平成28年3月20日(日) 11時から
式典会場：米沢市営体育館 米沢市金池3-1-62

祝賀会

日時：平成28年3月20日(日) 12時30分から
祝賀会会場：グランドホクヨウ 米沢市金池2-3-7

◎入学式のご案内

日時：平成28年4月5日(火) 10時30分から
式典会場：山形県体育館
山形市霞城町1-2 霞城公園内

◎各種相談の窓口

学務課学生支援担当 (☎0238-26-3017)

→授業料免除、奨学金、就職、インターンシップ、
休・退学、留学、学生寮、サークル活動、
健康相談、こころの悩み

学務課教育支援担当 (☎0238-26-3015)

→教務(授業・履修・成績)、教員免許、
諸証明書発行、転学部・転学科、
科目等履修生、TA

学務課入試担当 (☎0238-26-3013)

→各種(学部・大学院)入学試験、編入学試験

平成28年度工学部年間予定表

前期(平成28年4月1日～9月29日)

春季休業：4/1(金)～4/5(火)

入学式：4/5(火)

授業期間：4/8(金)～7/21(木)

定期試験：7/22(金)～8/1(水)

補講期間：8/2(火)～8/8(月)

夏季休業：8/9(火)～9/29(木)

後期(平成28年9月30日～平成29年3月31日)

授業期間：9/30(金)～12/22(木)

開学記念日：10/15(土)

冬季休業：12/25(日)～1/10(火)

授業期間：1/11(水)～2/1(水)

定期試験：2/2(木)～2/10(金)

補講期間：2/13(月)～2/17(金)

春季休業：2/20(月)～3/31(金)

学位記授与式：3/20(月)

【後援会通信】

平成27年4月10日、工学部後援会HPを開設しました。保護者のみなさまが「必要としている情報」をお伝えすることを第一の目的として運営してまいります。ご意見・ご要望などございましたら、ぜひ後援会事務局にお寄せください。

平成28年度より、保護者懇談会開催案内は工学部後援会のHPに掲載することになりました。今までのような郵送のご案内は行いませんので、ご注意ください。(同封した別紙に詳しい説明がございます。)みなさまのご参加を教職員一同お待ちしております。